

やってみよう新しいこと

OSAKA NOUGEI

大阪府立 農芸高等学校

SCHOOL GUIDE

毎日がアクティブ・ラーニング



農業教育の持つポテンシャルを最大限に活かし、
生徒一人ひとりの夢をカタチにできる
“感動とトキメキの学園”をめざします。
創立100周年を機に、
より魅力ある教育の創造と発信につとめます。



Access



南海高野線

初芝駅より南海バス平尾行(約10分)農芸高校前下車 東30m

近鉄長野線

河内松原駅より余部行(約25分)余部下車 西30m

地下鉄御堂筋線

なかもず駅より南海バス平尾行(約20分)農芸高校前下車 東30m



サクラの花びらと、イネの穂をデザインしたもの。サクラは国花として国、イネは農作物の代表として農業を表している。このデザインは昭和15年農芸学校として改称されたときに制定され、昭和23年の農芸高等学校に改称されるに伴い、中心が「農」から「高」に変更された。

大阪府立 **農芸高等学校**

〒587-0051 大阪府堺市美原区北余部595-1

TEL.072-361-0581 FAX.072-361-0684 URL.<http://osaka-nougei.ed.jp/>



facebook

ハイテク農芸科



食品加工科



資源動物科



ハイテク農芸科



頂端分裂組織を摘出して無菌環境で培養することにより、ウイルスに汚染されていない健康な苗を大量に生産する茎頂培養。

資源動物科



豚の飼養管理実習。エサやり、フン取り、動物の健康観察を毎日、行っています。

2

School Agriculture Clubs

教育活動の中心となる 学校農業クラブ

生徒全員が、各学科の農業クラブに所属します。放課後や土曜日、夏休みや春休みなどの休業日を利用し、授業の一環として校内や校外で実験・実習や研究活動などを行っています。また、農業クラブでは、1年生、2年生、3年生がともに活動を行う場面が多くあり、農芸祭では、農業クラブごとでの発表や販売、出展を行います。下級生は上級生からの指導を受け、専門的な学びを深めていきます。



食品加工科



春はイチゴの季節。大きな二重釜を使って大量のイチゴをジャムに加工します。できた製品は食品加工科の主力商品となります。

1

Features Of The Three Departments

魅力あふれる3学科

ハイテク農芸科、食品加工科、資源動物科といった、いずれも特色のある3つの農業学科を設置し、約9万㎡の広大な敷地の中で、生徒一人ひとりの夢をカタチにできる、豊かな学びを提供します。



5つの魅力!

農芸高校ってこんなところ

Understanding The Importance Of Living Creatures

3 命や自然の尊さ、 学ぶこと・働くことの 大切さを身に付ける

自らが責任を持って、植物の栽培や動物の飼育、食品の製造等のプロジェクトに取り組みます。なかには、愛情をもって育てあげた動物を屠殺（とさつ）し、食に供することもあります。これらのことを通じ、生徒たちは、命と自然の恩恵に感謝できる豊かな情操を養うとともに、学ぶこと・働くことの大切さを身に付けていきます。



Dreams Come True

4 将来の夢や目標を 形作るとともに、進路を自ら 選択・決定する力を育む

学級担任、各専門学科教員、進路指導部がタッグを組み、生徒一人ひとりに応じた指導体制を構築し、きめ細やかで丁寧な指導により、希望する進路実現を可能としています。ほぼ毎年、学校紹介での就職率100%の実現、多くの国立・公立大学合格者の輩出につながっています。



5

Learning With Community

地域資源を活かし、 地域創生や知的財産学習、 起業家教育に発展

地域・企業・大学・農政等の地域資源を活かした教育活動を進めることにより、農業に係る学びの成果を広く府民に還元するとともに、「農業の6次産業化」「農芸高校ブランドの商品開発」を実践するための知識・技術やノウハウを醸成するなど、地域創生を担う人材育成につなげています。

学校農業クラブ連盟の 三大目標

科学性 社会性 指導性

私たち農業クラブ員は、これらを自主的・主体的な活動を通して高めることを目標にしています。



本校産の豚肉を「のうげいポーク」として商標登録、また「大阪産（おおさかもん）」への登録や「農芸ポークカレー」としての商品化。



ハイテク農芸科

食と緑のスペシャリストを育てる

取得できる資格：初級バイオ技術者、日本農業技術検定(2,3級)、ビジネス文書実務検定(1~3級)、小型フォークリフト・小型車両系建設機械、危険物取扱責任者(乙種4類) など

生きていく上で欠かすことのできない「食」。広い農場やハウスなどの充実した施設とバイオテクノロジーを駆使し、豊かな「食と緑」について総合的に学びます。

自分でまいた一粒の種の発芽から収穫、四季を通して生命が躍動する不思議さ、額に汗して、立派に育てた喜び。植物とともに自分も自然に育つ。先生は植物そのもの、それが農場での学習です。そして、育てた植物を活用したマーケティング。農業生産に関する知識や技能の習得は、もちろん、農業の6次産業化などビジネスとしての農業、環境保全型の持続的な農業をめざします。

- ▶ 植物バイオテクノロジーなどの先端技術
- ▶ トラクターなどの農業機械実習
- ▶ コンピューター利用による環境制御
- ▶ 野菜、果樹、草花などの栽培・販売実習

- ▶ フラワーアレンジなどの生物活用
- ▶ 農業の6次産業化に向けた実習



卒業生からのメッセージ

土に触れ、命と向き合い、進みたい道を発見できる

農作物や動物を自分たちの手で育てていくところに魅力を感じて、農業高校を選びました。命の大切さを日常的に学べ、成長したときの達成感他は高校では味わえないものだと思います。高校での研究を通して仲間の考えを尊重することや思いやる気持ちや、それが大学での活動にも活かされています。また、農業現場での様々な問題について知ることができたので、将来はその問題を解決して「農業の楽しさ」を伝えられる人材になりたいです。



おきの ちなつ
進学 沖野 知夏

ハイテク農芸科(2017年卒業)
国立大学法人 静岡大学 農学部
生物資源科学科

社会に出て活動する大事な骨組みになった

農業高校の最大の魅力は、生徒の考えや挑戦したいことが叶えられる環境にあることです。今までの考え方にとらわれず、突拍子もない考えにも先生にアドバイスをもらいながら真剣に取り組み、発表する機会も与えてもらえます。僕は人前で話すことは苦手だったのですが、そのような場を経験することで次第に慣れることができました。これは社会に出る上で大きな成長です。農業高校での経験は、確実にみなさんの思いに強く残る3年間になると思います。



ほりぐら そうご
就職 堀口 創五

ハイテク農芸科(2016年卒業)
大阪府庁 都市整備部
農土木事務所



食品加工科

食ビジネスのプロデューサーを育てる

取得できる資格：危険物取扱責任者(乙種4類)、ビジネス文書実務検定(1~3級)、菓子検定(2,3級)、料理検定(2,3級)、日本農業技術検定(2,3級)、小型フォークリフト・小型車両系建設機械 など

「食」。それは人を健康に、人を笑顔に、そして人と人をつなげる… 私たちの生活に欠かすことのできない「食」について総合的に学びます。

食分野で新たなビジネスをプロデュースできる人材、活躍できる人材の育成を目標としています。食品産業、食品製造のスペシャリストになりたい人、将来パティシエや製パン技師になりたい人、短大・専門学校に進んで調理師や製菓衛生師、栄養士になりたい人、農学・食品系の大学に進んで管理栄養士をめざす人を育成します。

- ▶ 製菓・製パンや発酵食品の製造技術の習得
- ▶ 学校内外で採れた農産物の加工実習
- ▶ 食品の原料となる野菜・作物の栽培実習
- ▶ 食品の栄養成分、衛生管理、成分分析などの学習

- ▶ 食品に関する微生物の利用や培養法に関する実習
- ▶ 食品の保蔵、包装、流通に関する学習



卒業生からのメッセージ

目的や目標を意識して取り組めるようになった

中学の頃から、実践的に学びたいという思いが強く、大好きな「食」について学べ、また、将来、管理栄養士の資格修得につながるように、農業高校の食品加工科の受験を決めました。在学中に資格取得や各種発表会に参加したり、やる気次第であることにチャレンジできる学校だと思います。現在の仕事では、農業高校や大学で学んだことを活かして、安全でおいしい給食を見守る生徒たちに提供することはもちろん、食育にも力を入れて取り組んでいきたいです。



いけがみ ともみ
進学 池上 朋美

食品加工科(2013年卒業)
帝塚山大学 現代生活学部
食物栄養学科(2017年卒業)
大阪府立東住吉支援学校栄養教諭

専門知識や技術だけでなく向上心まで身に付いた

農業高校食品加工科では、高校の時から食品に関する知識や技術を学ぶことができます。在学中には、食品加工科が運営する高校生1日カフェに参加して、学外のお店でスイーツやパンのカフェも開きました。高校で学んだ製菓の理論や基本技術はもちろん、実習授業で教わった自ら考えて物事に取り組み方や、衛生面に気を配る態度、よりよい商品を作ろうという気持ちは今の仕事現場でも非常に役に立っています。社会で働く上で大切なことをたくさん学べる学校です。



さいか 雛賀 りな

食品加工科(2016年卒業)
大阪調理製菓専門学校
(2017年卒業)
将徳山ホール
パティシエ



資源動物科

ヒトと動物と環境を調和できるクリエイターを育てる

取得できる資格：愛玩動物飼養管理士、日本農業技術検定(2,3級)、ビジネス文書実務検定(1~3級)、小型フォークリフト・小型車両系建設機械、危険物取扱責任者(乙種4類) など

日々の飼養管理と最新の技術。命の誕生から食するまで全てを学び、ヒトと動物のつながりを大切にしながら、「農と食と命」について学び考えます。

動物の飼養管理、畜産物の加工などの専門知識と技術を総合的に学び、動物関連産業の経営ができる担い手を育成します。そして、6次産業化をめざして畜産物の開発や流通についても研究します。また、生命と環境とのかわりや学び、自然を大切にしながら動物を慈しむ心を育みます。さらに、あらゆる分野で動物を有用な資源として活用し、ヒトと動物との関係について総合的に学習します。

- ▶ 動物の飼養管理…ウシ、ブタ、ニワトリ、アイガモ、アルパカ、ヒツジ、ヤギ、ポニー、ウサギなど
- ▶ 畜産物(乳、肉、卵)の販売と乳加工(アイスクリームなど)肉加工(ハムなど)
- ▶ ふれあい動物園や食育教育ファームによる動物介在教育
- ▶ 耕畜融合によるアイガモ水稲同時作(環境保全型農業) ▶ 飼料作物の栽培から堆肥の製造まで(資源循環型畜産)



卒業生からのメッセージ

観察・考察する力と生命を預かる責任を学んだ

中学時代から畜産や酪農に興味があり、大阪で唯一牛を飼っている農業高校の資源動物科に入学しました。在学中は搾乳牛の飼養管理や子牛の哺乳・育成に携わってきました。牛の分娩に立ち会ったこともありました。生まれてくる生命や目の前で失われる生命を見て、命の尊さや食のありがたみ、生命を預かる者としての責任を学ぶことができました。学びを通して、酪農の改善・普及・発展に貢献したいと思うようになりました。帯広畜産大学への進学を決めました。



おおした みゆ
進学 大畑 美結

資源動物科(2017年卒業)
国立大学法人帯広畜産大学
畜産学部 畜産科学課程

実践的な学びで職場でも即戦力に

学内で動物を飼育している農業高校では、産学だけでは学ぶことができない動物との接し方や、健康状態を実践的に学ぶことができます。授業や実習を通して基礎的な疾病についての知識習得やワクチン接種などの作業スピード向上にもつながっています。動物に関わる仕事をしたいと考えている方は、ぜひ農業高校で将来の選択肢を広げてみてください。



たなか やすの
就職 田中 愛乃

資源動物科(2016年卒業)
株式会社ナカヤマック
清農場

School Life

行事予定



4 April	5 May	6 June	7 July	8 August	9 September	10 October	11 November	12 December	1 January	2 February	3 March
入学式 創立記念日	健康診断 防災訓練 校外学習 田植え実習		施設訪問 農業クラブ研究発表会		学校説明会 体育祭		体験入学 農業クラブ全国大会 生徒会・農業クラブ 役員選挙	学校説明会 施設訪問		研究 発表会	卒業式
		夏季実習						農芸祭 収穫感謝祭 家畜慰霊祭 学校説明会	修学旅行 <2年生>		入学者選抜 合格発表 入学説明会

クラブ活動

運動部

剣道/硬式テニス/硬式野球/サッカー/山岳/少林拳法
女子ソフトボール/女子バスケットボール/女子バレーボール
水泳/卓球/男子バスケットボール/ダンスポカール
バドミントン/ラグビー/陸上/男子バレーボール同好会

文化部

英語/演劇/音楽/華道/クラフト/茶道/写真/美術
放送/食品科学同好会/知財開発研究同好会

制服

創立100周年を記念し、「伝統の継承と新しさ」をコンセプトにリニューアルしました。



学校長あいさつ



大阪府立 農芸高等学校
校長 寺岡 正裕

生命や自然の尊さに触れ、人と環境を大切にできる態度や感性を育くむ。

本校は、創立100周年を迎えた歴史と伝統のある農業高校です。これまで、約13,000人以上の卒業生を輩出し、その多くが、農業はもとより、様々な分野で活躍されています。生徒達は、約9万㎡の広大な敷地での学びを通じ、生命や自然の尊さに触れ、人と環境を大切にできる態度や感性を育んでいます。そして、何よりもすべての生徒が活躍できる場面に必ずある、ユニークでとても高い教育力を有する農業高校です。百年の丘、農芸祭、オープンキャンパス、ホームページなどあらゆる機会を通じて生徒たちの活躍と魅力ある教育を発信します。

学校のあゆみ

大正6年	大阪府南河内郡黒山村外6ヵ村学校組合立として大阪府黒山実業学校誕生	昭和62年	畜産科を資源動物科に変更 牛舎、生物工芸実験室など関連施設新築
昭和4年	大阪府に移管 大阪府立黒山学校と改称	平成元年	農芸科をハイテク農芸科に変更 植物生産工場など関連施設新築
昭和15年	大阪府立農芸学校と改称	平成16年	大阪府立横山高等学校農芸科と機能統合
昭和16年	現在地に新校舎全面竣工	平成19年	定時制開校
昭和23年	大阪府立農芸高等学校と改称	平成28年	第67回日本学校農業クラブ全国大会 大阪大会の運営事務局
昭和43年	創立50周年記念事業 図書館同窓会記念館竣工	平成29年	創立100周年記念事業 正門・百年の丘等整備